

12. 神根地域の問題

(1) 下水道普及率を向上させる施策について

川口市全体を見れば 21 年度末現在 82.1%の下水道普及率も、神根地域においては 42.9%と低く、ところによっては 10%前後というところもあり、私に寄せられる要望の多くは下水道の早期普及であります。市街化調整区域の多い神根地域ではありますが、地方税という財源の目的を考えますと、上下水道の整備は真っ先に提供すべき行政サービスのひとつであり、なかなか進まない理由のひとつには、財源の不足もあるようですが、すでに普及している世帯との公平性からも早期に進めるべきと考えます。

区画整理事業が進捗しない地域においては、浄化槽設置の補助費も出ない状況で、いまだ汲み取りの地区もあり、川口市という都会においてはまったく許容しがたい有様です。先ごろ発表された川口市第 4 次総合計画によれば、市全体の下水道普及率をこの 27 年度までに 84%にするとのことでした。そこで、神根地域の下水道工事の詳細な計画について質問いたします。

質問の 1 点目として、下水道普及率を上げるためには本地域の早急な工事が急務であると考えますが、この地域における整備状況についてご説明ください。

2 点目として区画整理事業が進捗しないことにより一向に基盤整備が進まない地域に対する何らかの手当てをご検討いただけないでしょうか。

(2) 道路拡幅について

神根公民館や支所、消防署などが建つ市道青木神戸線は都市計画道路の指定を受けているとのことですが、一向に道路拡幅が行われないうまま現在に至っております。付近には神根小学校もあり学校通学路でもあります。横断歩道もなく、歩道も狭く大変歩きにくい上、幅員が十分でないため、大型バスが入れないことから、市民の足に影響が出るばかりでなく、バス旅行などの集合場所としても他の路上を利用するような状況になっております。

また、赤山地区のスーパーマーケット西友前から新井宿駅にかけての県道鳩ヶ谷・越谷線沿いの歩道は大変狭く、新井宿駅の利用に伴い、歩行者が増加傾向にあります。道がカーブしていることもあり、視界がさえぎられ大変危険な

状況で、何度となく事故も発生しております。現状では車椅子で歩道が通れる幅がないため、車椅子は車道にでて通行しているような状況です。

国道122号線と国道4号線を結ぶこの道路は利便性から交通量も増大しており、早急な道路拡幅が必要であると思います。

そこで質問いたします。1点目として市道青木神戸線の現状についてお伺いいたします。

2点目として県道鳩ヶ谷越谷線の現状と今後についてどのような方針であるかお伺いします。

(3) まちづくりについて

埼玉高速鉄道開通9年目になるところ、ご存じない方も多いのですが、新井宿駅のバスロータリーはいまだ暫定であり、土地も一部が川口市のものであるものの、3分の2が借地であります。市では区画整理と駅周辺の街路整備のために一部用地買収したものの、全く手付かずでありました。

まちづくりに対して地域の地権者は潜在意識の中で、「このままではいけない」と思っているようであり、「固定資産税はどうなるのだろうか」「後継者がいない」など将来設計に不安を感じています。

この地域はとてもいい生活条件がそろっています。埼玉高速鉄道で「新井宿駅」からは都心へわずか30分足らず、川口ジャンクションも程近く、鉄道・車の両方でうまみがあるばかりでなく、緑豊かで静かなとても環境のいい立地であります。しかし、十分な都市計画がなされないまま、今に至っているために、この9年間に、農地は墓地になり、介護施設になり、資材置き場になって様変わりを始めています。確かに、本市には墓地も介護施設も足りないのですが、この地域に集中するのはいかがなものかと思えます。しかし、農地の保有者に相続が発生すると、川口市の農業の経済的な理由と現行の法の下では、その土地を手放さざるを得ない状況であります。農業委員会でも農地転用に対し反対であるが認めざるをえないという様子です。また乱開発で治水対策が十分でなくなったなどの意見もあります。

このたび3月議会で取り上げられましたが、赤山歴史自然公園の計画を検討しているとの事。車であれば川口パーキングエリア周辺、主要な駅は新井宿駅

が拠点になると思います。またこの地域では新たな観光の拠点となるべく周辺住民が協力してまちづくりを進めようとしています。

そこで質問いたします。第4次総合計画の中でも神根地域は緑化産業の振興と緑と調和した住宅地の形成、緑の拠点の整備、都市基盤整備の推進、新井宿駅周辺の整備、公共交通の利便性の向上があげられていますが、具体的にはどのような計画があるのでしょうか。都市計画上の観点からお伺いいたします。